

自立生活の困難な障害者や高齢者を地域ぐるみで支えようと、三浦市社会福祉協議会は「地域福祉活動計画」(二〇〇二～〇六年)の策定作業を本格化させている。有識者も含む策定委員会をこのほど発足、超高齢社会や介護保険事業など山積する課題に加え「障害者の権利擁護」にも配慮した中期的指針としたい意向で、来年六月の策定を目指す。

(塩野 圭太)

三浦市協 地域福祉活動計画策定進む



高齢者らの集うサロン。山積する課題を前に「地域福祉活動計画」の策定が急がれる。三浦市南浦町上宮田

市民の声を計画に反映させよう。

地域ぐるみで  
自立生活支援

地域福祉活動計画は、地域の福祉ニーズを探り、住民参画で課題の解決に努めるための五カ年計画。同市社協がまとめた案案をたたき合ひ、障害者自身やボランティアらが参画する作業部会、策定委で審議していく。

策定作業に先立ち、同市社協が現計画の達成度を「自己採点」したところ、福祉サロンの整備やボランティア活動の推進などで実績を挙げた半面、「(市社協の)調査・研究機能の強

障害者の権利  
擁護などが柱

有識者の委員会

化「当事者活動の支援」といった取り組みの遅れが浮き彫りになった。

九月下旬に開かれた策定委の初会合では、現計画の策定当時、少子高齢化がクローズアップされた時代背景から高齢化対策に偏重した反省点も踏まえ、障害者に配慮した計画づくりを求めめる声が上がった。

同市社協では十一月下旬までに、高齢者や障害者団体など約百団体からヒアリングを行うほか、七百人規模のアンケートも実施予定